



2008年6月23日

千代田区長 石川雅己様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)

関東甲信越支部 支部長 伊平則夫

同 保存問題委員会 委員長 和田昇三

同 千代田地域会 代表 赤堀 忍



「東京中央郵便局庁舎」の保存活用に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

貴区におかれましては、日本の建築文化の継承に深い理解を示され、また本協会の活動にも積極的にご支援を賜り、深く感謝致します。

さて、郵政民営化に伴い東京中央郵便局を高層ビルに建て替える旨の発表がありました。千代田区にあり東京駅前の顔でもある中央郵便局庁舎が壊される可能性があることを知り、私たちは、都市景観や建築文化の観点からも大変重大な問題であると、かねてより認識しておりました。

高層化が進む丸の内地区の中にあって、同時代の建築作品がわずかとなった今日、この東京中央郵便局庁舎が街並みの中に実在の近代史として現存し、保存再生される東京駅赤レンガ駅舎とともに、都市景観の重要な構成要素となっていることは、千代田区にとってかけがえのない価値を持つと考えます。

東京中央郵便局庁舎に関し、これらの観点から、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会では、過去に5度（うち、2度は大阪中央郵便局庁舎と併せて）、顕彰や保存活用を求める要望書を郵政大臣、文化庁長官、東京都知事、総務大臣・日本郵政公社総裁、日本郵政株式会社社長宛に出してきました。しかし、同庁舎の文化財登録等の顕彰は、未だ実現にいたっておりません。

吉田鉄郎（1894～1956）を筆頭に多くの建築家を擁し、建築表現において時代をリードし続けた旧逓信省の作品の中でも、1931年（昭和6年）に竣工した東京中央郵便局庁舎は、日本近代建築史上の大きな転換点となった特筆すべき代表作です。煉瓦造や様式主義の外観が主流だった当時、吉田鉄郎は構造の特性を利用して窓面積を大きくすることなどにより、日本の伝統建築にみられる真壁構造の表現と、当時の先端技術を、合理性・経済性の中に融合させました。そしてこれが様式建築の明治生命館（国指定重要文化財・1934年）よりも早く竣工していることから、いかに画期的であったかを窺い知ることができます。

このように、東京中央郵便局庁舎には昭和初期の日本の近代建築の到達点が示されており、このことにより、日本のモダニズム建築「DOCOMOMO100選」にも挙げられております。

こうした中、2008年3月25日、有識者や建築家らによる「東京中央郵便局を重要文化財にする会」

が発足したことが新聞報道にありました。超党派の国会議員による重要文化財指定への活動も報告されています。これらは、昭和時代の近代建築がもつ機能美・構成美を評価する意識が社会に浸透してきたことを如実に示すものと考えられます。

ぜひとも、この東京中央郵便局庁舎のもつ社会的・文化的・歴史的な価値が顕彰され、東京駅前の現地において中央郵便局の象徴として保存活用の道が開かれますよう、千代田区景観まちづくり条例に基づく重要物件指定などにより、貴区には積極的に行政的観点からのご支援を賜りたく、ここにご高配をお願い申し上げます。

なお、私たち日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会および同千代田地域会は、上記実現のため、できる限りのご協力をさせていただくことを申し添えます。

敬具